

特別写真展：「宮本常一が歩いた瀬戸内の風景」のご案内

「ただ一度おとずれただけでも強く印象に残っているところも少なくない。

そこには土性骨のすわったような人たちが、その風土の中に生きていた」

周防大島出身の民俗学者の宮本常一（明治40年～昭和56年）は、その著作『私の日本地図 - 芸予の海』のあとがきで、海と陸の双方を暮らしの場として生きる瀬戸内沿岸の民衆の印象をこのように書いています。昭和28年に成立した離島振興法の産みの親のひとりとして宮本は瀬戸内他の島々を歩いて、額に汗して働く人々の姿をいとおしい眼差しで写し取りました。

今回の特別写真展では、昭和32年8月24日に周防大島の旧東和町長崎にある自宅を出発してから瀬戸内の島々を歩き、9月1日に帰宅するまでの8日間の旅で宮本常一が撮った写真36枚を、この間の旅日記と宮本の代表的な著作と共に展示しています。

展示写真には以下の島々、町村が含まれています。蒲刈島、倉橋島、豊島、鞆、尾道、大崎上島、大崎下島、大三島、生口島、岩城島、弓削島、因島、田島、北木島、真鍋島、塩飽本島。

展示期間：平成25年5月3日（金）～8月4日（日）

展示時間：午前9時～午後4時半

展示場所：周防大島町八幡生涯学習のむら 伝承の館（学びの間）

入場料： 無料

■関連文化講座とギャラリートーク

テーマ：宮本常一の瀬戸内の旅

講師：①森本 孝（元日本観光文化研究所研究員）

②高木泰伸（周防大島文化交流センター）

日時：平成25年7月28日（日） 午後2時～午後4時

場所：周防大島町八幡生涯学習のむら 伝承の館

入場料： 無料

主催： 周防大島町八幡生涯学習のむら（宮本常一資料保存研究協議会）

後援： 周防大島町教育委員会